

2025 年第 50 週(12 月 8 日～12 月 14 日)

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律

感染症発生動向調査

名古屋市感染症発生動向調査情報

名古屋市感染症情報センター(名古屋市衛生研究所疫学情報部)

2025 年(令和 7 年)12 月 17 日作成

<https://www.city.nagoya.jp/kenkofukushi/eisei/1015269/1015388/index.html>

◆本市の状況

〔定点把握感染症の発生動向〕

インフルエンザの定点当たり患者報告数は 40.56 で前週比 0.9 倍に減少しましたが、「警報レベル」の「30」を上回っています。

〔1 類～5 類全数把握感染症の届出〕

診断週	感染症 の分類	疾病名	発生数	発生の概要
2025 年 第 50 週	2 類	結核	4	男性、70 歳、リンパ節結核 男性、82 歳、肺結核 女性、20 歳、無症状病原体保有者 女性、24 歳、無症状病原体保有者
2025 年 第 50 週	3 類	腸管出血性大腸菌感染症	2	女性、29 歳、感染地域：名古屋市、血清群・ 毒素型：O103 ベロ毒素 VT1 男性、37 歳、感染地域：大韓民国、血清群・ 毒素型：O157 ベロ毒素 VT2
2025 年 第 50 週	4 類	レジオネラ症	1	男性、74 歳、肺炎型、感染地域：名古屋市
2025 年 第 50 週	5 類	カルバペネム耐性腸内 細菌目細菌感染症	1	男性、58 歳、菌検出検体：血液、菌種： <i>Klebsiella pneumoniae</i> 、感染経路：以前か らの保菌
2025 年 第 50 週	5 類	劇症型溶血性レンサ球 菌感染症	2	男性、45 歳 男性、77 歳
2025 年 第 50 週	5 類	後天性免疫不全症候群 (HIV 感染症を含 む)	1	男性、34 歳、無症状病原体保有者、感染経 路：同性間性的接触、感染地域：国内

2025 年 第 50 週	5 類	梅毒	8	男性、61 歳、早期顕症梅毒 1 期 男性、51 歳、早期顕症梅毒 1 期 男性、22 歳、早期顕症梅毒 1 期 男性、63 歳、早期顕症梅毒 2 期 男性、22 歳、早期顕症梅毒 2 期 女性、25 歳、無症状病原体保有者 女性、26 歳、無症状病原体保有者 女性、30 歳、無症状病原体保有者
2025 年 第 50 週	5 類	百日咳	8	男性、13 歳、検査方法：核酸増幅法による 病原体遺伝子の検出、感染地域：名古屋市 男性、10 歳、検査方法：核酸増幅法による 病原体遺伝子の検出、感染地域：名古屋市 女性、10 歳、検査方法：核酸増幅法による 病原体遺伝子の検出、感染地域：名古屋市 男性、10 歳、検査方法：核酸増幅法による 病原体遺伝子の検出、感染地域：名古屋市 男性、6 歳、検査方法：鼻咽頭拭い液検体か らのイムノクロマト法による病原体抗原の 検出、感染地域：名古屋市 女性、53 歳、検査方法：核酸増幅法による 病原体遺伝子の検出、感染地域：名古屋市 男性、16 歳、検査方法：抗体の検出、感染 地域：名古屋市 男性、12 歳、検査方法：核酸増幅法による 病原体遺伝子の検出、感染地域：不明

※ 感染経路、感染原因、感染地域については、確定あるいは推定として記載されていたものを表示。

（報告数はその後の訂正などにより、変更される場合があります）

報告日が遅れたため先週号までに掲載されなかった 1 類から 5 類全数報告感染症。

診断週	感染症 の分類	疾病名	発生数	発生の概要
2025 年 第 49 週	4 類	レジオネラ症	1	女性、58 歳、肺炎型、感染地域：名古屋市

2025 年 第 49 週	5 類	後天性免疫不全症候群 (HIV 感染症を含む)	1	男性、47 歳、無症状病原体保有者、感染経路：同性間性的接触、感染地域：国内
2025 年 第 49 週	5 類	梅毒	4	女性、45 歳、早期顕症梅毒 2 期 女性、22 歳、早期顕症梅毒 2 期 女性、56 歳、早期顕症梅毒 2 期 男性、51 歳、無症状病原体保有者
2025 年 第 48 週	5 類	梅毒	1	男性、51 歳、早期顕症梅毒 1 期
2025 年 第 45 週	5 類	梅毒	1	男性、25 歳、早期顕症梅毒 1 期
2025 年 第 43 週	5 類	梅毒	1	男性、21 歳、早期顕症梅毒 2 期

※ 感染経路、感染原因、感染地域については、確定あるいは推定として記載されていたものを表示。

(報告数はその後の訂正などにより、変更される場合があります)

〔2025 年 1 類～5 類全数把握感染症の届出報告数の累計〕

感染症の分類	疾病名	累計
1 類感染症	エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、他	0
2 類感染症	急性灰白髄炎	0
2 類感染症	結核（潜在性結核感染症を含む）	336(98)
2 類感染症	ジフテリア	0
2 類感染症	重症急性呼吸器症候群（病原体がコロナウイルス属 SARS コロナウイルスであるものに限る）	0
2 類感染症	中東呼吸器症候群（病原体がベータコロナウイルス属 MERS コロナウイルスであるものに限る）	0
2 類感染症	鳥インフルエンザ（H5N1）	0
2 類感染症	鳥インフルエンザ（H7N9）	0
3 類感染症	コレラ	0
3 類感染症	細菌性赤痢	0
3 類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	70(15)
3 類感染症	腸チフス	0
3 類感染症	パラチフス	0
4 類感染症	E 型肝炎	5(2)

4 類感染症	A 型肝炎	3
4 類感染症	チクングニア熱	1
4 類感染症	日本紅斑熱	5
4 類感染症	マラリア	2
4 類感染症	レジオネラ症	58
4 類感染症	レプトスピラ症	1
5 類感染症	アメーバ赤痢	8
5 類感染症	ウイルス性肝炎	3
5 類感染症	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	33【1】
5 類感染症	急性脳炎（ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く）	4
5 類感染症	クロイツフェルト・ヤコブ病	2
5 類感染症	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	28
5 類感染症	後天性免疫不全症候群（H I V 感染症を含む）	36(26)
5 類感染症	侵襲性インフルエンザ菌感染症	25
5 類感染症	侵襲性髄膜炎菌感染症	3
5 類感染症	侵襲性肺炎球菌感染症	82
5 類感染症	水痘（入院例に限る）	14
5 類感染症	梅毒	515(153)
5 類感染症	播種性クリプトコックス症	2
5 類感染症	破傷風	2
5 類感染症	百日咳	941
5 類感染症	麻しん	6
5 類感染症	薬剤耐性アシネトバクター感染症	1

累計は 2025 年第 1 週からの診断週による累計、() 内は無症状病原体保有者累計患者数を再掲、[] 内は疑似症累計患者数を再掲、【 】 内は感染症死亡者の死体累計患者数を再掲、〔 〕 内は感染症死亡疑い者の死体累計患者数を再掲、〈 〉 内は後天性免疫不全症候群の「その他」累計患者数を再掲。対象疾病が多いため、4 類及び 5 類感染症は報告のあった疾病のみを掲載。

（報告数はその後の訂正などにより、変更される場合があります）

〔愛知県麻疹・風しん患者調査事業について〕

平成 20 年 1 月 1 日から、麻疹・風しんは全数把握対象となりましたが、愛知県内では、感染症法に基づく届出では把握できない情報を得るため、医師会と協力して「愛知県麻疹・風しん患者調査事業」を実施しており、名古屋市も参加しています。

調査結果については下記のリンク先(愛知県衛生研究所ホームページの中のコンテンツ)
<https://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/msl/msl.html> をご覧ください。

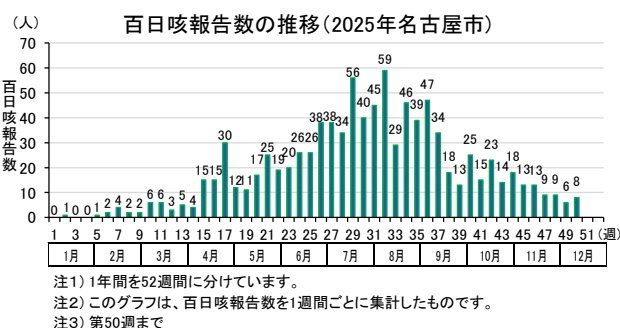
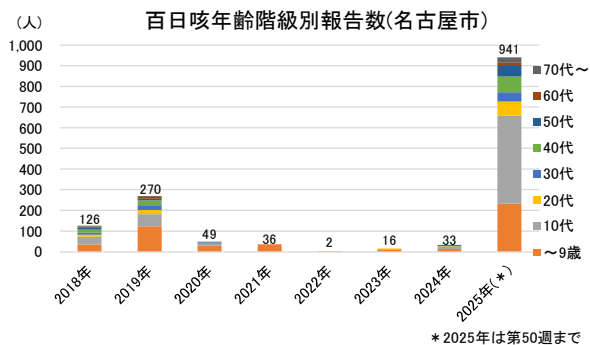
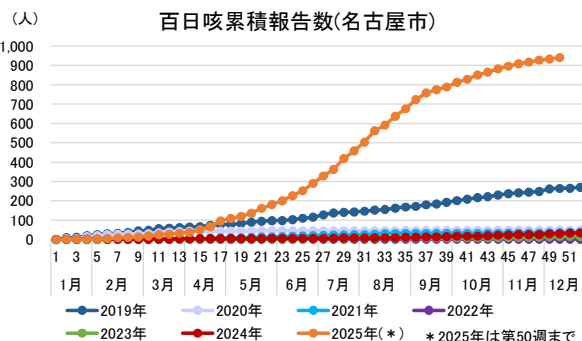
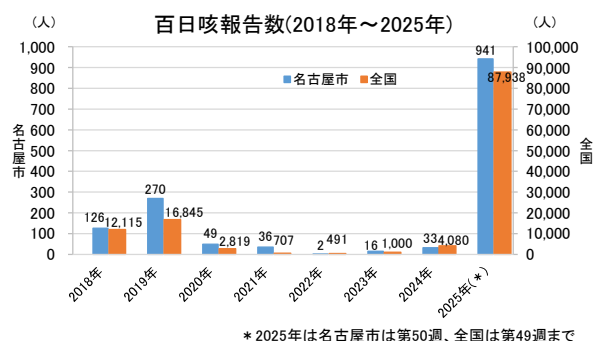
〔定点医療機関からの情報〕

定点医療機関からは検査結果や患者発生状況等がコメント情報として報告されています。定点医療機関から報告されたコメント情報は下記のとおりです。なお、コメント情報のなかった定点医療機関については掲載しておりません。

インフルエンザ A 型：11 件 インフルエンザ B 型：1 件	定点医療機関（千種区）
インフルエンザはすべて A 型	定点医療機関（西区）
インフルエンザ A 型：34 名 インフルエンザ B 型：0 名	定点医療機関（中村区）
インフルエンザ A 型：31 名 インフルエンザ B 型：3 名	定点医療機関（昭和区）
インフルエンザはすべて A 型	定点医療機関（昭和区）
インフルエンザ A 型（男性：73 名、女性：68 名） 急性呼吸器感染症 （男性：205 名、女性：171 名）計 376 名	定点医療機関（南区）
インフルエンザ A 型：35 名 インフルエンザ B 型：4 名	定点医療機関（守山区）
インフルエンザ A 型：20 名 インフルエンザ B 型：1 名	定点医療機関（緑区）
RS ウイルス感染症＋A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎が依然多いです。ヘルペス歯肉口内炎や手足口病などが稀にいます。	定点医療機関（中区）
マイコプラズマ肺炎：2 名	定点医療機関（名東区）
インフルエンザ減少	定点医療機関（名東区）

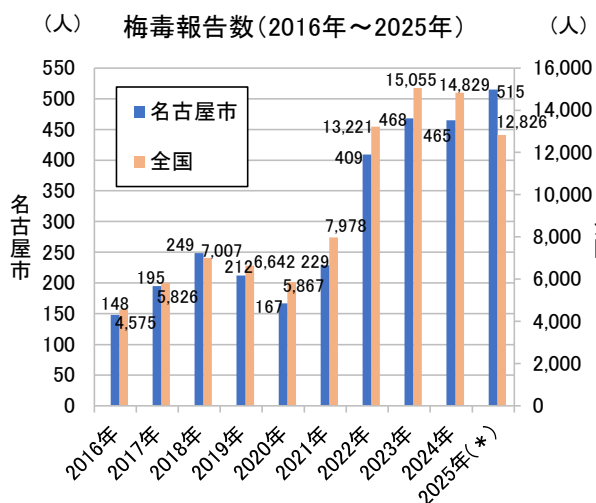
〔名古屋市の百日咳報告数〕

- 本市における百日咳の2025年第1週から第50週までの累積報告数は941人です。2025年は上半期に百日咳の報告数が全国的に増加していましたが、9月ごろから減少してきています。
- 百日咳は、百日咳菌による急性の気道感染症で、特有のけいれん性の激しい咳発作（痙咳発作）を特徴とします。世界中でみられ、特に乳児や小児に多い疾患です。母体からの免疫が不十分な乳児は早期に罹患する可能性があり、肺炎や脳症を合併し、まれに死に至ることがあります。
- 感染経路は、鼻咽頭や気道分泌物による飛沫感染や接触感染です。
- 症状は次の3段階で進行し、全体で約2～3ヶ月の経過をたどります。
- カタル期（約2週間）：かぜ症状で始まり、咳の頻度と激しさが増します。
- 痙咳期（約2～3週間）：けいれん性の咳発作が特徴的で、乳児では無呼吸やチアノーゼ、けいれん、呼吸停止が生じることがあります。
- 回復期（約2～3週間）：咳発作が徐々に減少し、回復に向かいます。
- 治療には抗菌薬が用いられます。
- 予防策として、5種混合ワクチン（DPT-IPV-Hib）等の接種が有効です。

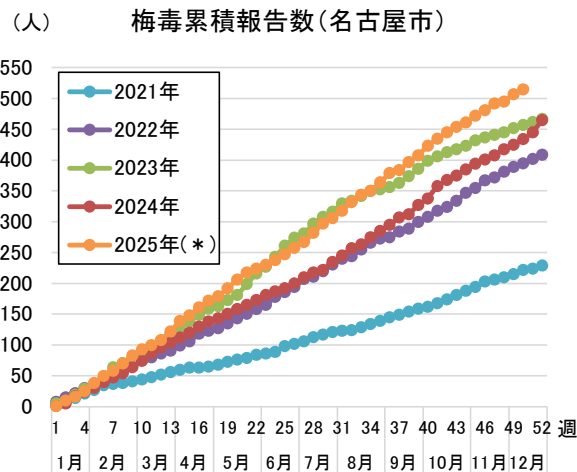


〔名古屋市の梅毒報告数〕

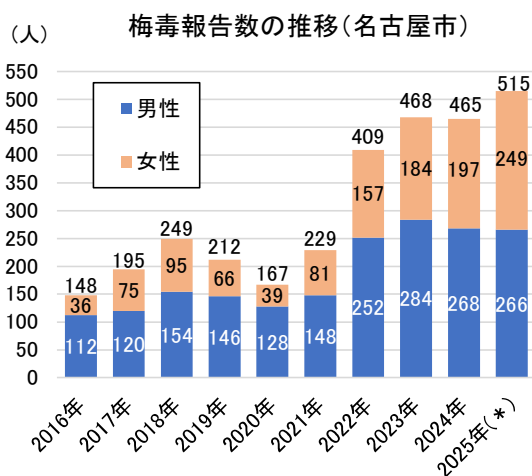
- 本市における梅毒の2025年第1週から第50週までの累積報告数は515人です。近年、梅毒の報告数が全国的に増加しており、本市における2025年の報告数は第46週目で過去最多となりさらに更新しています。（「梅毒累積報告数（名古屋市）」を参照）
- 梅毒は、梅毒トレポネーマという病原体による感染症で、感染経路は感染部位と粘膜や皮膚との直接接触（性的接触）です。
- 梅毒の症状は、時間の経過とともに局所から全身に広がっていきます。症状が一時的に消失しても治療を行わないと病気は進行します。また、感染しても症状が現れない場合や治っても再度感染することがあります。
- 妊婦が梅毒に感染すると、胎盤を通して胎児も感染し、死産や早産、先天梅毒を起こす可能性があります。
- 梅毒の治療には抗生物質が用いられます。



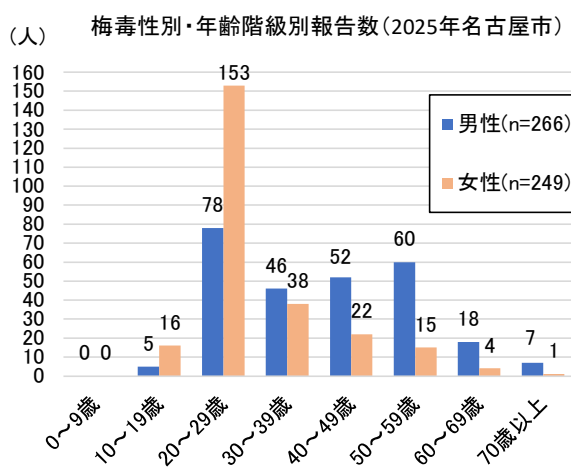
* 2025年は名古屋市は第50週、全国は第49週まで



* 2025年は第50週まで



* 2025年は第50週まで

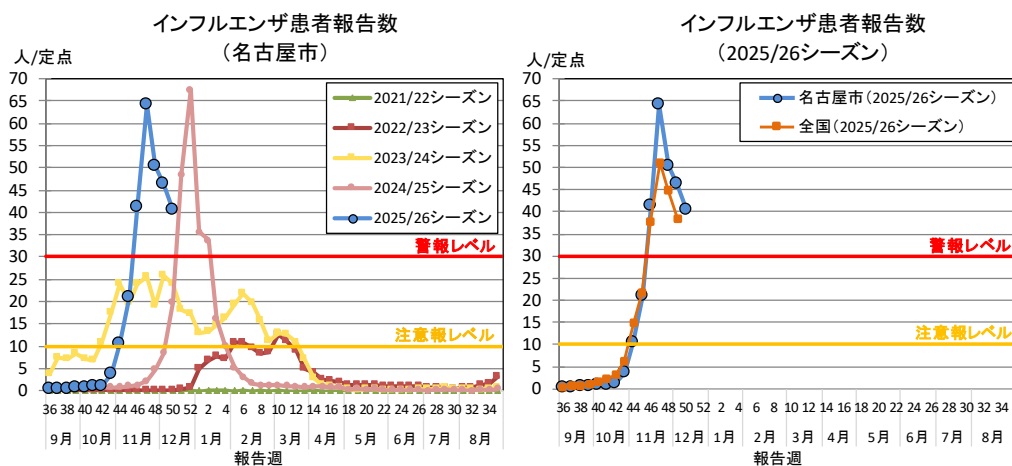


注) 第50週まで

〔トピックス：インフルエンザ（2025/26 シーズン）〕

- 本市における 2025 年第 50 週（12 月 8 日～12 月 14 日）の市内 50 定点からのインフルエンザ患者報告数は 2028 人と前週比 0.9 倍に減少しましたが、定点当たり患者報告数は 40.56 で、「警報レベル」の「30」を上回っています。
- 2025/2026 シーズンの集団かぜ（インフルエンザ様疾患）において、名古屋市衛生研究所で実施した PCR 検査の結果、インフルエンザウイルスのうち A/H3 亜型ウイルス遺伝子が検出されました。
- インフルエンザは、インフルエンザウイルスを病原体とする急性の呼吸器感染症です。主な感染経路は、感染した人の咳やくしゃみによる飛沫感染と病原体に汚染された物等を介した接触感染があります。
- 感染後、1 日から 3 日程度の潜伏期間を経て、発熱（38℃以上）、頭痛、関節痛、筋肉痛、全身倦怠感等が出現し、咳、鼻水等の上気道炎症状が現れます。いわゆる「かぜ」に比べて全身症状が強いのが特徴です。
- 高齢者や乳幼児などは重症化することがあるので、特に注意が必要です。
- インフルエンザの治療には抗ウイルス薬が用いられます。
- インフルエンザの重症化予防にはワクチン接種が有効です。

〔名古屋市のインフルエンザ患者報告数：2025 年 12 月 17 日作成〕



定点当たり患者報告数の推移

	第43週 (10/20～ 10/26)	第44週 (10/27～ 11/2)	第45週 (11/3～ 11/9)	第46週 (11/10～ 11/16)	第47週 (11/17～ 11/23)	第48週 (11/24～ 11/30)	第49週 (12/1～ 12/7)	第50週 (12/8～ 12/14)
名古屋市 (2025/26)	3.68 [184]	10.54 [527]	20.86 [1043]	41.22 [2061]	64.34 [3217]	50.38 [2519]	46.40 [2320]	40.56 [2028]
愛知県	3.64	11.50	19.60	39.56	60.16	55.73	53.37	—
全国	6.29	14.90	21.82	37.73	51.12	44.99	38.51	—
名古屋市 (昨シーズン)	0.70	0.70	1.06	1.27	2.07	4.76	8.43	19.77

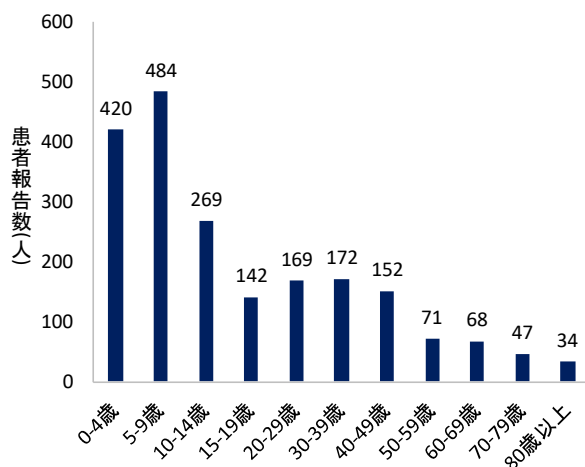
※「1」を超えると流行入り、「10」を超えると注意報、「30」を超えると警報の基準

※患者報告数は各週公表時における速報値

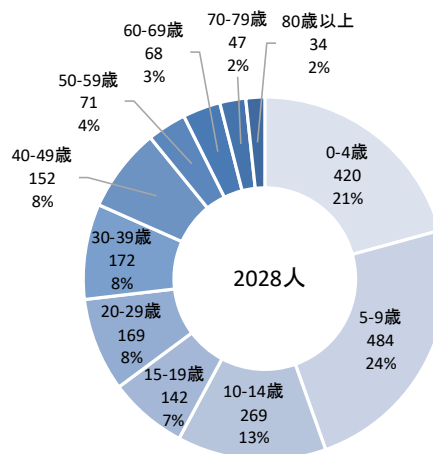
※[]内は名古屋市内50定点からの患者報告数

※2025年4月7日（第15週）から急性呼吸器感染症（ARI）サーベイランスが開始されるとともに定点医療機関数が増えられました。第15週以降は変更後の定点医療機関数を使用して図表を作成しています。

定点からのインフルエンザの
年齢階級別患者報告数(2025年第50週)



年齢階級別患者報告数(2025年第50週)の割合



〔インフルエンザ関連リンク〕

- ・インフルエンザ情報（名古屋市）

<https://www.city.nagoya.jp/kenkofukushi/eisei/1015269/1015388/1034411/1015408.html>

- ・インフルエンザ（総合ページ）（厚生労働省）

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/kenkou/kekkaku-kansenshou/infuenza/index.html

- ・インフルエンザウイルス分離・検出速報（国立健康危機管理研究機構）

<https://id-info.jih.go.jp/surveillance/iasr/graphdata/020/index.html>



◆2025 年第 50 週 患者報告数（疾病区別）、定点当たり患者報告数（疾病区別）、 年齢階級別患者報告数（疾病別）

患者報告数（名古屋市）

2025 年第 50 週（2025 年 12 月 8 日～12 月 14 日）

疾病名/区	千種	東	北	西	中村	中	昭和	瑞穂	熱田	中川	港	南	守山	緑	名東	天白	計	前週比	過去比※
★インフルエンザ	98	98	53	367	99	126	60	16	29	180	71	198	188	176	204	65	2028	0.9	2.0
★新型コロナウイルス感染症（COVID-19）	11	1	2	3	7	2	6	2	1	3	2	10	7	2	2		61	0.8	0.2
○RSウイルス感染症				3	1			1		1		1				3	10	1.0	2.1
○咽頭結膜熱				3						6	1				4	1	15		0.2
○A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2	5		7	1					2	2		1	1	10		31	0.9	0.3
○感染性胃腸炎	15		5	18	8	7	6			8	6	4	7	26	10	9	129	1.0	0.5
○水痘	2				1					1				3			7	1.0	0.8
○手足口病																	0		
○伝染性紅斑		1	2	3						2			3				11	1.8	3.0
○突発性発しん												1		1			2	0.4	0.3
○ヘルパンギーナ																	0		
○流行性耳下腺炎												1		2			3	0.8	2.3
△急性出血性結膜炎																	0		
△流行性角結膜炎					3				1			2				2	8		2.7
◇細菌性髄膜炎																	0		
◇無菌性髄膜炎																	0		
◇マイコプラズマ肺炎							1			3							4	0.3	0.6
◇クラミジア肺炎																	0		
◇感染性胃腸炎（ロタウイルスに限る）																	0		
★急性呼吸器感染症（ARI）	190	231	209	695	104	289	47	15	55	385	64	459	367	318	464	101	3993	0.9	
計	318	336	271	1099	224	424	120	34	86	591	146	676	573	529	694	181	6302		
★急性呼吸器感染症定点数	4	2	4	4	3	2	2	2	2	4	3	3	4	4	3	4	50		
○小児科定点数	3	1	2	2	2	1	1	1	1	3	2	2	2	4	2	2	31		
△眼科定点数	1		1	1	1		1	1	1			1		1	1	1	11		
◇基幹定点数			1				1			1							3		

★○△◇は定点種別を示す。

のセルは、該当疾病の定点医療機関のない区を示す。

※2025年4月7日（第15週）から急性呼吸器感染症（ARI）サーベイランスが開始されるとともに定点医療機関数に変更されました。

※過去3年の同週の平均値との比
※新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は過去2年の同週との比

定点当たり患者報告数、および流行警報・注意報発生状況（名古屋市）

2025 年第 50 週（2025 年 12 月 8 日～12 月 14 日）

疾病名/区	千種	東	北	西	中村	中	昭和	瑞穂	熱田	中川	港	南	守山	緑	名東	天白	平均
インフルエンザ	24.50	49.00	13.25	91.75	33.00	63.00	30.00	8.00	14.50	45.00	23.67	66.00	47.00	44.00	68.00	16.25	40.56
★新型コロナウイルス感染症（COVID-19）																	1.22
○RSウイルス感染症				1.50	0.50			1.00		0.33		0.50				1.50	0.32
○咽頭結膜熱				1.50						2.00	0.50				2.00	0.50	0.48
○A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.67	5.00		3.50	0.50					0.67	1.00		0.50	0.25	5.00		1.00
○感染性胃腸炎	5.00		2.50	9.00	4.00	7.00	6.00			2.67	3.00	2.00	3.50	6.50	5.00	4.50	4.16
○水痘	0.67				0.50					0.33				0.75			0.23
○手足口病																	
○伝染性紅斑		1.00	1.00	1.50						0.67			1.50				0.35
○突発性発しん												0.50		0.25			0.06
○ヘルパンギーナ																	
○流行性耳下腺炎												0.50		0.50			0.10
△急性出血性結膜炎																	
△流行性角結膜炎					3.00				1.00				2.00			2.00	0.73
急性呼吸器感染症（ARI）	47.50	115.50	52.25	173.75	34.67	144.50	23.50	7.50	27.50	96.25	21.33	153.00	91.75	79.50	154.67	25.25	79.86

警報対象疾病	流行発生警報		流行発生注意報
	開始基準値	終息基準値	
インフルエンザ	30	10	10
新型コロナウイルス感染症（COVID-19）	—	—	—
RSウイルス感染症	—	—	—
咽頭結膜熱	3	1	—
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8	4	—
感染性胃腸炎	20	12	—
水痘	2	1	1
手足口病	5	2	—
伝染性紅斑	2	1	—
突発性発しん	—	—	—
ヘルパンギーナ	6	2	—
流行性耳下腺炎	6	2	3
急性出血性結膜炎	1	0.1	—
流行性角結膜炎	8	4	—
急性呼吸器感染症（ARI）	—	—	—

流行警報・注意報について

■ **太字の数字** は流行発生警報

■ **斜体の数字** は流行発生注意報

■ 警報及び注意報の発生は、厚生労働省の感染症発生動向調査における警報発生システムの基準値（左表）に準拠しています。なお基準値は、変更される場合や当センターの判断で、独自の設定に変更する場合があります。

■ この警報及び注意報は、感染症発生動向調査に関わる専門家の対策立案を支援するためのものです。詳しい目的、利用法等については当情報センターにご連絡ください。

* 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の区別定点当たり患者報告数は計上しておりません。

年齢階級別患者報告数(名古屋市)

2025年第50週(2025年12月8日～12月14日)

疾病名/年齢階級	0～5 ヵ月	6～11 ヵ月	1歳	2	3	4	5	6	7	8	9	10～ 14	15～ 19	20～ 29	30～ 39	40～ 49	50～ 59	60～ 69	70～ 79	80歳 以上	計
インフルエンザ	11	18	79	89	105	118	123	129	89	74	69	269	142	169	172	152	71	68	47	34	2028
新型コロナウイルス感染症（COVID-19）	1	1	3	1	1	2					1	5	1	6	4	3	2	3	9	18	61

疾病名/年齢階級	0～5 ヵ月	6～11 ヵ月	1歳	2	3	4	5	6	7	8	9	10～ 14	15～ 19	20歳 以上	計
RSウイルス感染症	4	2	2		2									10	
咽頭結膜熱			3	3	2	2		1	1	2			1	15	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎			2	1	2	1	4	7	2	5	2	4	1	31	
感染性胃腸炎	4	4	14	14	8	14	8	12	8	6	3	6	5	23	129
水痘				1			1		1	1		2		1	7
手足口病															0
伝染性紅斑			1		2	1	1	1		1	2	2		11	
突発性発しん		1		1										2	
ヘルパンギーナ														0	
流行性耳下腺炎				1		1			1					3	

疾病名/年齢階級	0～5 ヵ月	6～11 ヵ月	1歳	2	3	4	5	6	7	8	9	10～ 14	15～ 19	20～ 29	30～ 39	40～ 49	50～ 59	60～ 69	70歳 以上	計
急性出血性結膜炎																				0
流行性角結膜炎									1			1	2	1		3				8

疾病名/年齢階級	0歳	1～4	5～9	10～ 14	15～ 19	20～ 24	25～ 29	30～ 34	35～ 39	40～ 44	45～ 49	50～ 54	55～ 59	60～ 64	65～ 69	70歳 以上	計
細菌性髄膜炎																	0
無菌性髄膜炎																	0
マイコプラズマ肺炎			3				1										4
クラミジア肺炎																	0
感染性胃腸炎（ロタウイルスに限る）																	0

疾病名/年齢階級	0歳	1～4	5～9	10～ 14	15～ 19	20～ 29	30～ 39	40～ 49	50～ 59	60～ 69	70～ 79	80歳 以上	計
急性呼吸器感染症（ARI）	118	1032	791	369	215	270	351	271	200	149	109	118	3993

患者報告数および定点当たり患者報告数の推移(名古屋市)

疾病名/調査週		第41週 (10/6～ 10/12)	第42週 (10/13～ 10/19)	第43週 (10/20～ 10/26)	第44週 (10/27～ 11/2)	第45週 (11/3～ 11/9)	第46週 (11/10～ 11/16)	第47週 (11/17～ 11/23)	第48週 (11/24～ 11/30)	第49週 (12/1～ 12/7)	第50週 (12/8～ 12/14)
インフルエンザ	患者報告数	49	55	184	527	1043	2061	3217	2519	2320	2028
	定点当たり患者報告数	0.98	1.10	3.68	10.54	20.86	41.22	64.34	50.38	46.40	40.56
新型コロナウイルス感染症(COVID-19)	患者報告数	223	139	138	121	104	120	121	79	80	61
	定点当たり患者報告数	4.46	2.78	2.76	2.42	2.08	2.40	2.42	1.58	1.60	1.22
RSウイルス感染症	患者報告数	33	32	43	27	12	20	16	12	10	10
	定点当たり患者報告数	1.06	1.03	1.39	0.87	0.39	0.65	0.52	0.39	0.32	0.32
咽頭結膜熱	患者報告数	4	5	6	4	8	12	5	10	0	15
	定点当たり患者報告数	0.13	0.16	0.19	0.13	0.26	0.39	0.16	0.32	0	0.48
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	患者報告数	37	20	39	37	35	37	33	26	34	31
	定点当たり患者報告数	1.19	0.65	1.26	1.19	1.13	1.19	1.06	0.84	1.10	1.00
感染性胃腸炎	患者報告数	120	80	82	94	96	96	116	63	130	129
	定点当たり患者報告数	3.87	2.58	2.65	3.03	3.10	3.10	3.74	2.03	4.19	4.16
水痘	患者報告数	1	1	5	4	2	6	3	14	7	7
	定点当たり患者報告数	0.03	0.03	0.16	0.13	0.06	0.19	0.10	0.45	0.23	0.23
手足口病	患者報告数	3	5	5	1	4	0	0	0	1	0
	定点当たり患者報告数	0.10	0.16	0.16	0.03	0.13	0	0	0	0.03	0
伝染性紅斑	患者報告数	28	16	15	9	17	24	7	7	6	11
	定点当たり患者報告数	0.90	0.52	0.48	0.29	0.55	0.77	0.23	0.23	0.19	0.35
突発性発しん	患者報告数	4	2	7	3	4	2	5	4	5	2
	定点当たり患者報告数	0.13	0.06	0.23	0.10	0.13	0.06	0.16	0.13	0.16	0.06
ヘルパンギーナ	患者報告数	8	9	11	5	2	4	0	1	1	0
	定点当たり患者報告数	0.26	0.29	0.35	0.16	0.06	0.13	0	0.03	0.03	0
流行性耳下腺炎	患者報告数	1	1	1	0	0	1	0	2	4	3
	定点当たり患者報告数	0.03	0.03	0.03	0	0	0.03	0	0.06	0.13	0.10
急性出血性結膜炎	患者報告数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	定点当たり患者報告数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
流行性角結膜炎	患者報告数	6	4	6	2	2	7	4	2	0	8
	定点当たり患者報告数	0.55	0.36	0.55	0.18	0.18	0.64	0.36	0.18	0	0.73
細菌性髄膜炎	患者報告数	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0
	定点当たり患者報告数	0	0	0.67	0	0	0	0	0	0	0
無菌性髄膜炎	患者報告数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	定点当たり患者報告数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
マイコプラズマ肺炎	患者報告数	8	9	8	7	15	4	13	11	12	4
	定点当たり患者報告数	2.67	3.00	2.67	2.33	5.00	1.33	4.33	3.67	4.00	1.33
クラミジア肺炎	患者報告数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	定点当たり患者報告数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	患者報告数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	定点当たり患者報告数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
急性呼吸器感染症(ARI)	患者報告数	3033	2625	3124	3830	3950	4837	5463	4382	4283	3993
	定点当たり患者報告数	60.66	52.50	62.48	76.60	79.00	96.74	109.26	87.64	85.66	79.86

(患者報告数はその後の訂正などにより、変更される場合があります)

◆入院サーベイランス

基幹定点医療機関（市内 3 医療機関：北区、昭和区、中川区）より、インフルエンザ及び新型コロナウイルス感染症（COVID-19）による入院患者の発生状況が毎週報告されています。

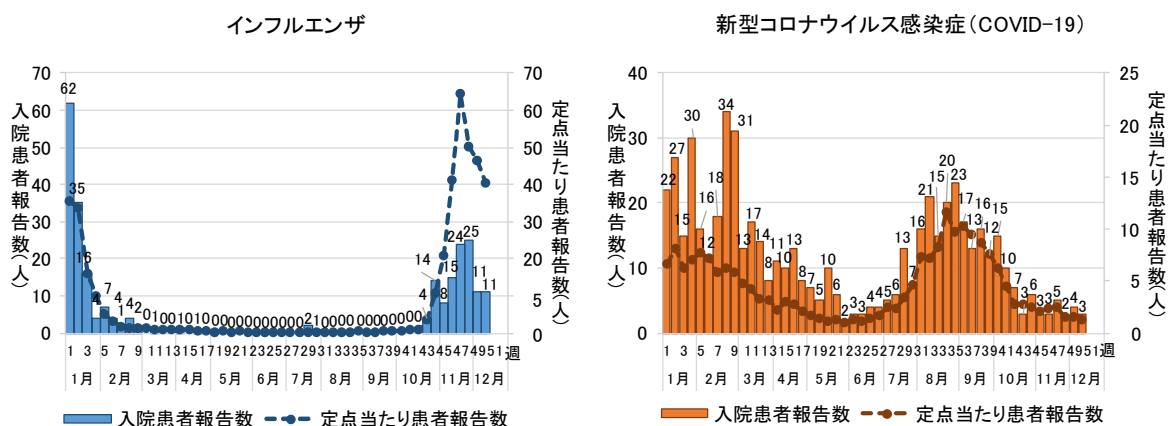
年齢階級別入院患者報告数(2025年第50週(2025年12月8日～12月14日))

疾病名/年齢階級	0歳	1～4	5～9	10～14	15～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80歳以上	計
インフルエンザ	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	4	11
新型コロナウイルス感染症(COVID-19)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3

年齢階級別入院患者報告数(2025年累積)

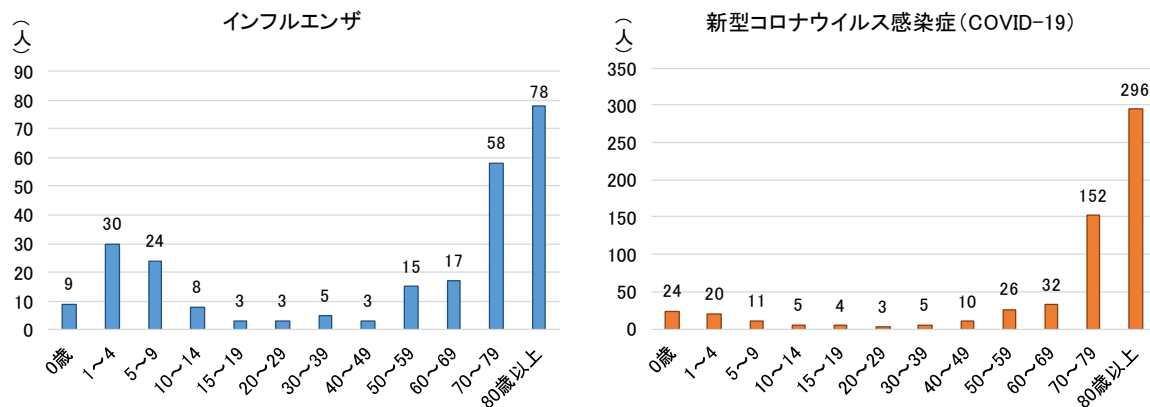
疾病名/年齢階級	0歳	1～4	5～9	10～14	15～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80歳以上	計
インフルエンザ	9	30	24	8	3	3	5	3	15	17	58	78	253
新型コロナウイルス感染症(COVID-19)	24	20	11	5	4	3	5	10	26	32	152	296	588

入院患者報告数および定点当たり患者報告数の推移(2025年)



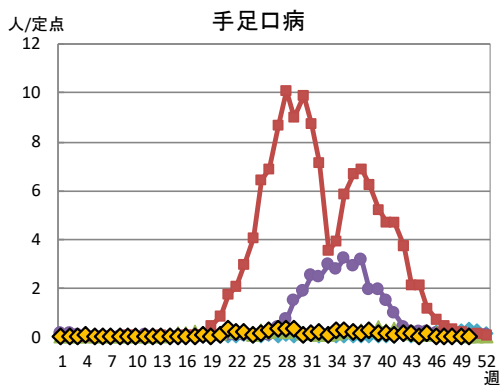
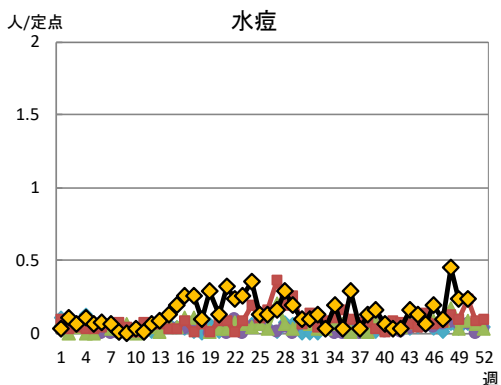
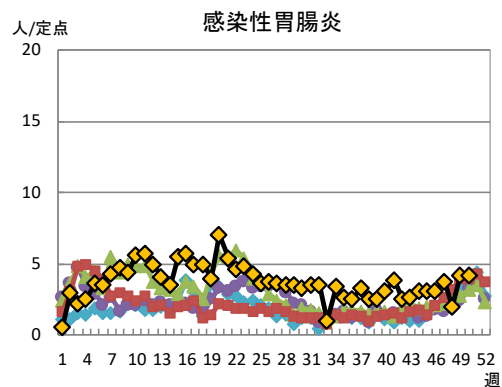
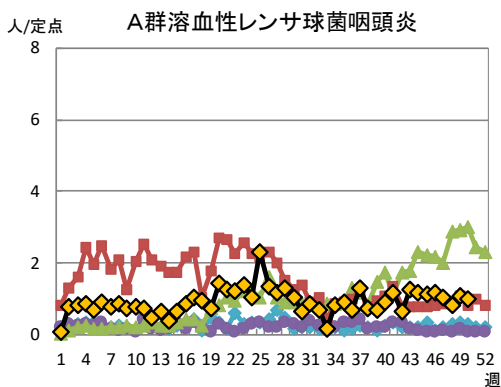
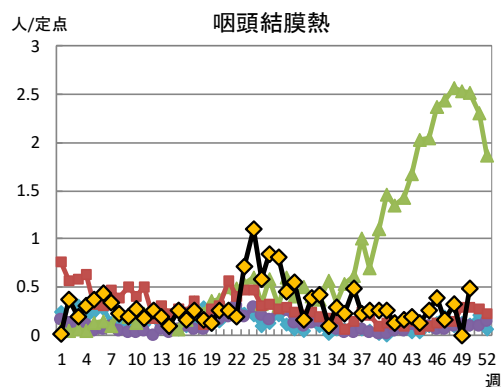
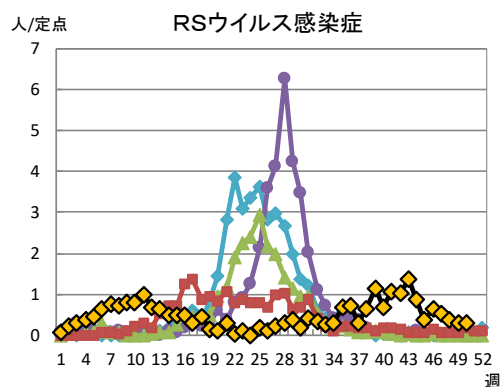
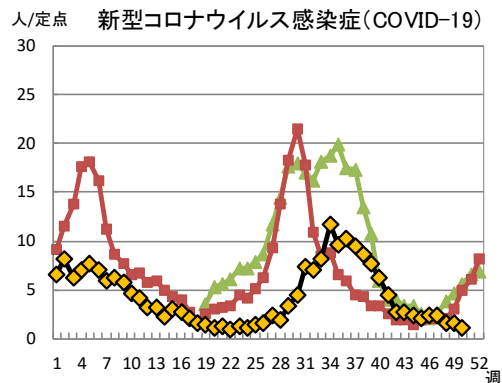
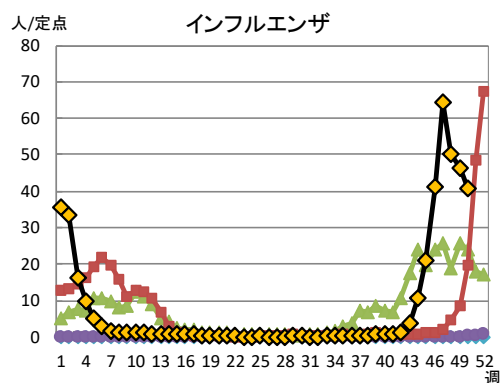
※2025年4月7日（第15週）から急性呼吸器感染症（ARI）サーベイランスが開始されるとともに定点医療機関数が変更されました。
第15週以降は変更後の定点医療機関数を使用して図表を作成しています。

年齢階級別入院患者報告数(2025年累積)



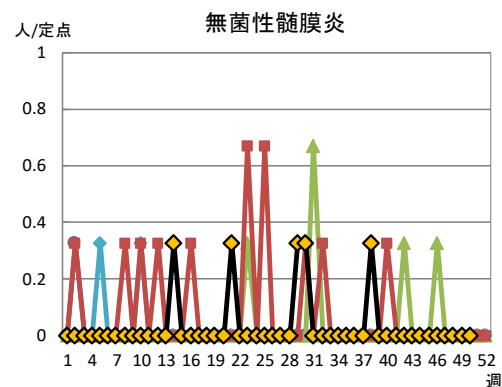
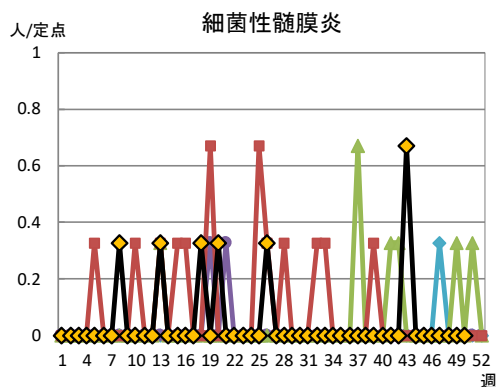
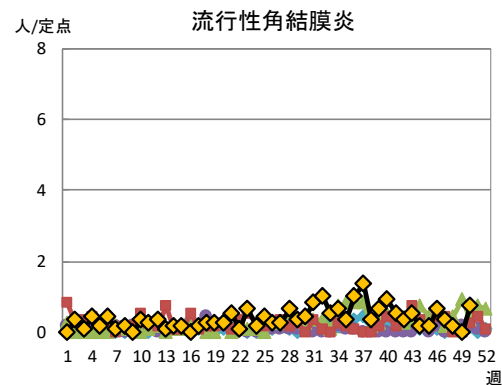
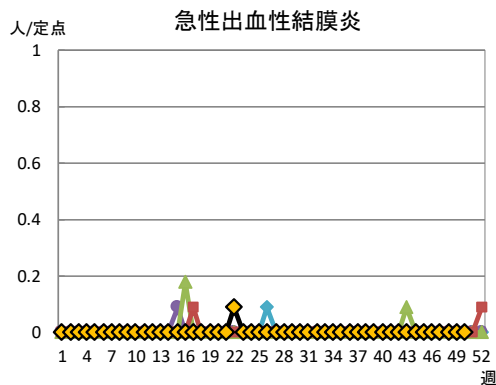
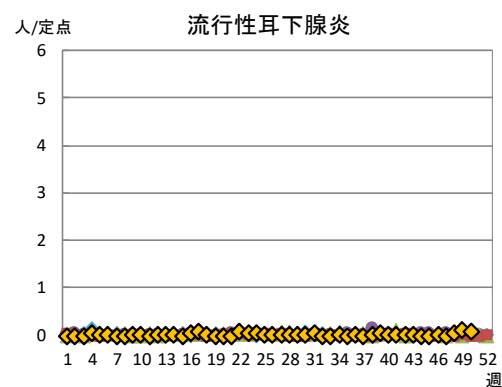
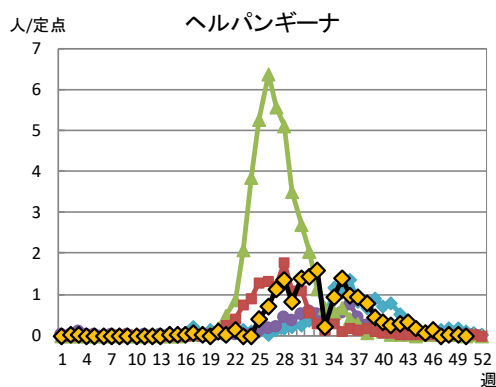
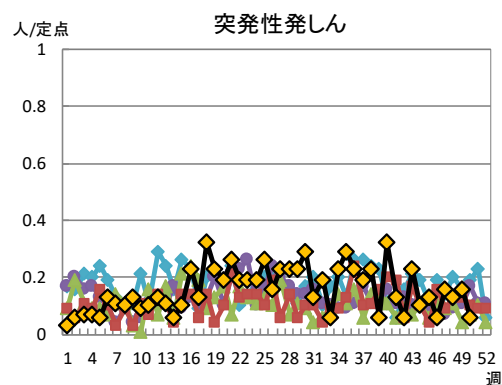
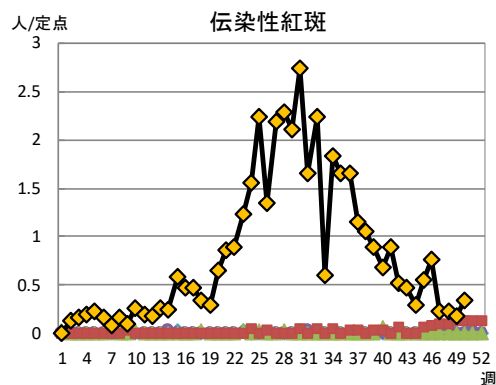
◆急性呼吸器感染症定点・小児科定点・眼科定点・基幹定点医療機関からの
定点当たり患者報告数の推移グラフ(1) 2025年第50週まで

2021年 2022年 2023年
2024年 2025年



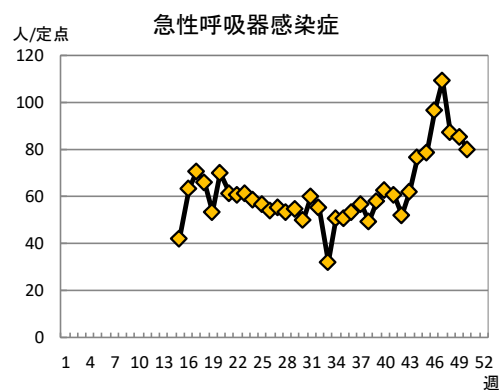
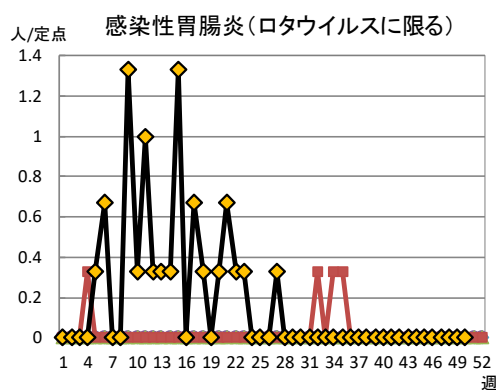
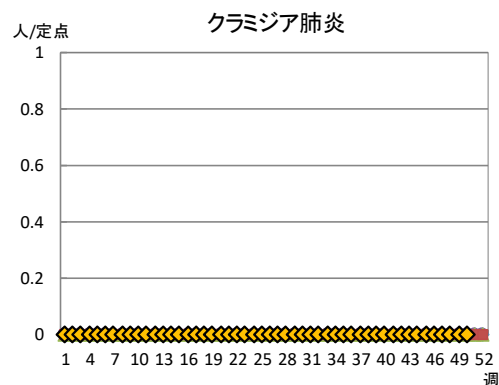
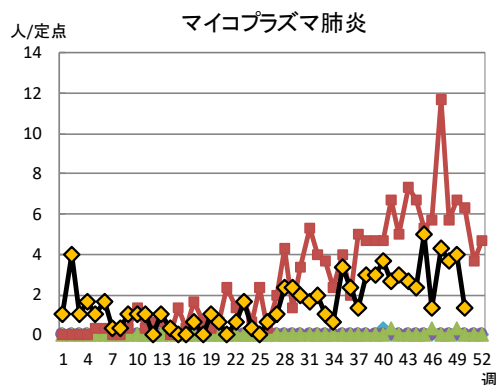
◆急性呼吸器感染症定点・小児科定点・眼科定点・基幹定点医療機関からの
 定点当たり患者報告数の推移グラフ(2) 2025年第50週まで

—●— 2021年 —●— 2022年 —●— 2023年
 —■— 2024年 —◆— 2025年



◆急性呼吸器感染症定点・小児科定点・眼科定点・基幹定点医療機関からの
 定点当たり患者報告数の推移グラフ(3) 2025年第50週まで

2021年 2022年 2023年
 2024年 2025年



※2025年4月7日(第15週)から急性呼吸器感染症(ARI)サーベイランスが開始されるとともに定点医療機関数が変更されました。第15週以降は変更後の定点医療機関数を使用して図表を作成しています。

◆ 基幹病院定点月報の集計結果〔2025年11月分〕

基幹定点数：3（北区、昭和区、中川区）

基幹定点報告、区別患者報告数(名古屋市)

2025年11月

疾病名/区	北	昭和	中川	計
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	2	2	4	8
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症			1	1
薬剤耐性緑膿菌感染症				0
計	2	2	5	9

基幹定点報告、年齢階級別患者報告数(名古屋市)

2025年11月

疾病名/年齢階級	0～9	10～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80～89	90歳以上	計
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	1					2		3	2		8
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症										1	1
薬剤耐性緑膿菌感染症											0
計	1	0	0	0	0	2	0	3	2	1	9

◆ 性感染症（STD）について〔性感染症定点把握、2025年11月分〕

性感染症定点数：15（泌尿器科系：8、産婦人科系：7）

患者報告数を性別でみると男性は性器クラミジア感染症、淋菌感染症、尖圭コンジローマ、性器ヘルペスウイルス感染症の順に多く、女性は性器ヘルペスウイルス感染症、性器クラミジア感染症、尖圭コンジローマ、淋菌感染症の順に多く報告がありました。今月の性感染症の報告数は男性189人、女性は47人でした。（表2、図1参照）

2025年11月分を年齢階級別に見ると、男性では性器クラミジア感染症、淋菌感染症で15歳以上の全ての年齢階級で報告があり、性器ヘルペスウイルス感染症では20歳以上の全ての年齢階級で報告がありました。また、尖圭コンジローマでは20歳から44歳及び50歳以上の全ての年齢階級で報告がありました。女性では性器クラミジア感染症は15歳から49歳の年齢階級で報告があり、性器ヘルペスウイルス感染症では20歳以上の全ての年齢階級で報告がありました。また、尖圭コンジローマでは30歳から39歳の年齢階級で報告があり、淋菌感染症では20歳から24歳の年齢階級で報告がありました。（表2、図2参照）

表1. 性感染症区別患者報告数(名古屋市)

2025年11月

疾病名/区	千種	東	北	西	中村	中	昭和	瑞穂	熱田	中川	港	南	守山	緑	名東	天白	計
性器クラミジア感染症	3		17		5	40	8	1		9			1	7		7	98
性器ヘルペスウイルス感染症			5	4	1	30	3	1		7		1	1			1	54
尖圭コンジローマ			5			16	4			7						2	34
淋菌感染症			13		1	16	1			12				5		2	50
計	3		40	4	7	102	16	2		35		1	2	12		12	236

STD定点数	1		2	1	1	2	1	1		1		1	1	1	1	1	15
--------	---	--	---	---	---	---	---	---	--	---	--	---	---	---	---	---	----

のセルは、該当疾病の定点医療機関のない区を示す。

表2. 性感染症年齢階級別患者報告数(名古屋市)

2025年11月

疾病名/年齢階級	性別	0～14	15～19	20～24	25～29	30～34	35～39	40～44	45～49	50～54	55歳以上	計
性器クラミジア感染症	男性		6	21	20	5	7	3	8	1	6	77
	女性		7	4	4	3	1	1	1			21
性器ヘルペスウイルス感染症	男性			2	6	6	2	6	3	3	3	31
	女性			1	1	4	1	5	5	4	2	23
尖圭コンジローマ	男性			4	11	2	5	3		4	3	32
	女性					1	1					2
淋菌感染症	男性		9	11	9	3	7	3	4	1	2	49
	女性			1								1
計	男性		15	38	46	16	21	15	15	9	14	189
	女性		7	6	5	8	3	6	6	4	2	47

図1. STD各感染症が総患者報告数に占める割合（2025年11月）

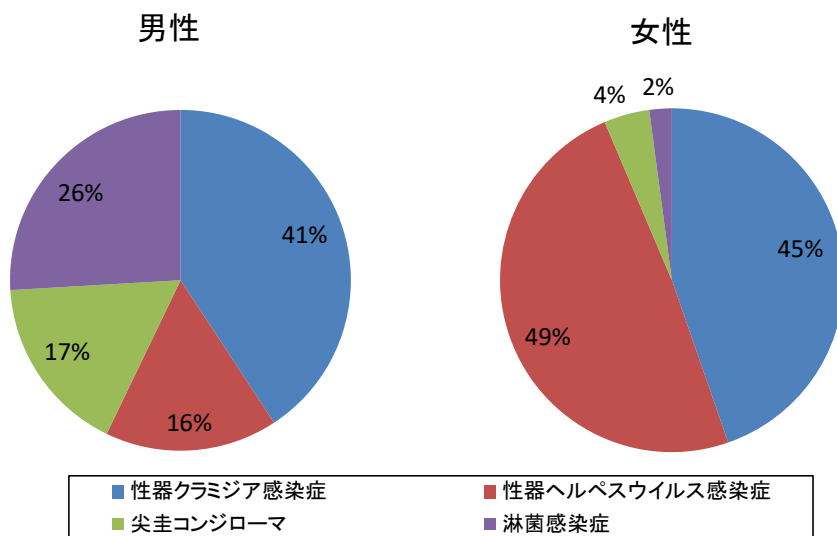


図2. 各STDの性別・年齢階級別の定点あたり患者報告数（2025年11月）

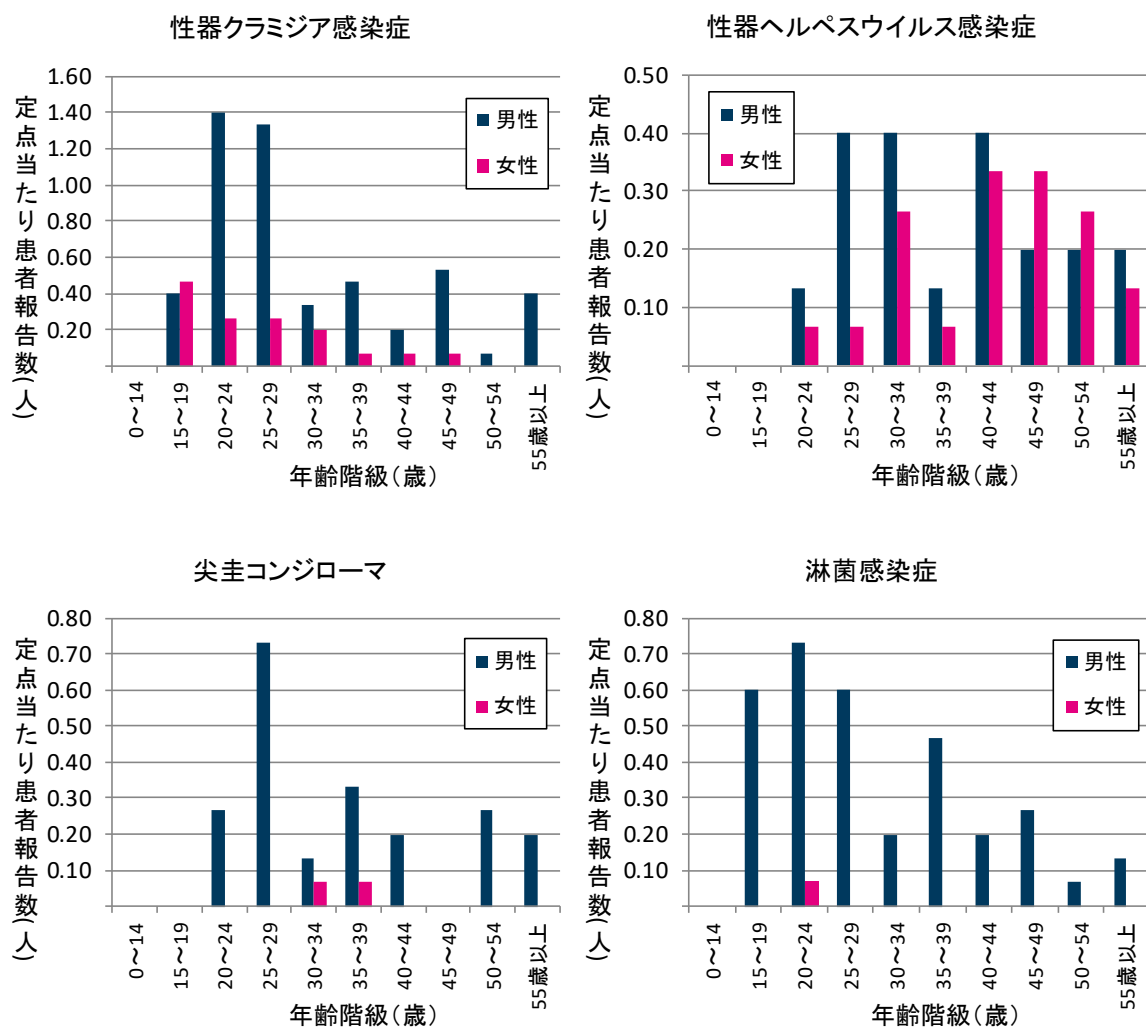


図3. 各STDの定点当たり患者報告数の推移

